CHINTAI
クラシック・スペシャル

ウクライナ国立歌劇場

旧キエフ・オペラ

スペインの異国情緒にあふれる舞台！
前奏曲、ハバネラ、セギディーリャ、
闘牛士の歌、花の歌など、
名曲が散りばめられた、愛と嫉妬のドラマ。

自由と情熱に生きるカルメン、
魔性の女がホセの運命を狂わせる！

CARMEN

―カルメン―

全3幕　G.ビゼー作曲
原語上演(フランス語)／日本語字幕付き

指揮：アッラ・クルババ　管弦楽：ウクライナ国立歌劇場管弦楽団　合唱：ウクライナ国立歌劇場合唱団　舞踊：ウクライナ国立バレエ

2023年1月13日(金)　18:30開演 (17:45開場)

長野市芸術館 メインホール

全席指定(税込)
S席16,000円 A席13,000円 B席10,000円
C席 5,000円 (舞台の一部が見えにくい席となります)

主催：信濃毎日新聞社／abn長野朝日放送／オフィス・マユ
制作：光藍社　特別協賛：CHINTAI

※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者は変更になる場合がございます。
※駐車場(有料)に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施にご協力をお願いします。

CHINTAI ユースチケット：4,000円(A席相当)

◆開催日時点で満25歳以下の方が対象です。
◆公演当日、年齢確認のできる身分証をご提示ください。ご提示のない場合は定価との差額を頂戴いたします。
◆受付開始：10/7(金)10:00～
※先着30枚限定。上限枚数に達し次第、受付を終了いたします。
※取扱いはオフィス・マユへのお電話(026-226-1001)申込みのみとなります。お席はお選びいただけません。

■お申込み・お問合せ：
026-226-1001 オフィス・マユ
(平日9：30～17:30)

■チケットのお求めは

店頭	長野市芸術館チケットセンター 026-219-3191(10:00～19:00火曜定休) チケットぴあ／ローソンチケット
電話予約	オフィス・マユ 026-226-1001(平日/9:30～17:30) 長野市芸術館チケットセンター 026-219-3191(10:00～19:00火曜定休)
ネット予約	オフィス・マユ https://office-mayu.com 長野市芸術館チケットオンライン http://www.nagano-arts.or.jp/ チケットぴあ t.pia.jp(Pコード:226-887)／ローソンチケット l-tike.com(Lコード:34625)

10/7(金)10:00～
一般発売開始

■オフィス・マユでご予約後の入金方法

郵便振替：口座記号・口座番号＝00520-9-77326　加入者名＝オフィスマユ
銀行振込：八十二銀行県庁内支店　普通預金　口座番号＝31030　口座名＝オフィスマユ
※チケット代＋送料414円(簡易書留)の合計金額をご入金ください。入金確認後、チケットを郵送いたします。振込手数料はお客様にてご負担くださいますようお願いいたします。

オフィス・マユのネット予約はこちらから
オフィス・マユのホームページからもアクセスいただけます。
座席をお選びいただけます。

熱きスペインを舞台にした
ビゼーのオペラ最高傑作！
名曲で紡がれる、運命の恋！

ウクライナ国立歌劇場

旧キエフ・オペラ

CARMEN

―全3幕―

G.ビゼー作曲　原語上演(フランス語)／日本語字幕付き

＜あらすじ＞

スペインのセビリア。純朴で真面目な衛兵の伍長ホセは、タバコ工場でもめ事を起こしたカルメンを捕らえる。ホセは葛藤しながらも自由奔放で情熱的なカルメンの誘惑に抗えず彼女を逃がしてしまう。ホセは婚約者のミカエラも職務も忘れてカルメンのためにジプシーの密輸団にまで身を落とす。しかし次第にカルメンはホセに興味を無くし、花形闘牛士のエスカミーリョに夢中になる。華やかな闘牛の日に現れた嫉妬に狂うホセは、カルメンにやり直そうと迫るが…。

＜本公演の開催にあたり＞

光藍社では、これまで“キエフ・オペラ”として親しまれてきた、ウクライナ国立歌劇場の5年ぶり7度目の来日公演を2023年1月に開催いたします。数年前より企画していた本公演ですが、2月からのウクライナ情勢の悪化により、実施の見直しを迫られました。現在では「何が起きるかわからない不安定な状況だが、ウクライナの人々、劇場を応援してくださった日本の皆様に恩返しがしたい」との劇場側の意向を受け、引き続き開催に向けて準備を進めております。この度の公演では、ウクライナの港がある黒海が封鎖されていることから舞台装置の輸送が難しく、日本で調達したものを使用することとなりました。

依然として不安定な情勢ではございますが、芸術を通して平和に心を寄せ、日本から遠く離れたウクライナで育まれてきた芸術を近くに感じることのできる本公演に、多くの方に足をお運びいただけることを心より願っております。

伝統を誇るウクライナ国立歌劇場が7度目の来日！
名曲ぞろいの「カルメン」でオペラの醍醐味を堪能する

侵攻＆戦禍が生じた中、ウクライナ国立歌劇場（旧キエフ・オペラ）が7度目の来日を果たす。そもそもウクライナは、ピアノのホロヴィッツ、リヒテル、ヴァイオリンのオイストラフ、スターンほか錚々たる顔ぶれを多数輩出した大音楽国家。当歌劇場も1867年の創立ゆえに、1869年開場のウィーン国立歌劇場と変わらぬ伝統を有している。しかも今（2022年6月）なお上演を続けているというから、音楽を大切にする姿勢が実に素晴らしい。そんな彼らが来日するとなれば、支援の意味にとどまらず足を運びたくなる。

ウクライナ国立歌劇場の魅力は、まず力強く分厚い合唱だ。これは西欧やアジアとは一線を画した民族的なパワーというほかない。そしてレベルの揃った歌手陣（複数の主役がいるオペラではとても大事なことだ）、さらには芝居としてのオペラを見事に表出する巧みな演技力やステージ構成も光っている。彼らは、そうした東欧ならではの文化を反映した舞台で、オペラの醍醐味をナチュラルに堪能させてくれる。

今回の演目はビゼーの「カルメン」。このオペラ史上屈指の人気作は、恋愛と失恋がもたらす悲劇という明快なストーリー、変化に富んだドラマティックな展開もさることながら、何と言っても極上の名曲・名旋律の宝庫だ。各幕の前奏曲や間奏曲はオーケストラ公演の定番だし、カルメンの「ハバネラ」「セギディーリャ」、エスカミーリョの「闘牛士の歌」、ドン・ホセの「花の歌」、ミカエラの「何を恐れることがありましょう」等々、有名アリアが目白押しで、「ジプシーの歌」をはじめ重唱や合唱の名曲も数多く、カルメンとホセが対決する最終場面の二重唱は息を呑むこと間違いなし。恋と情熱に溢れた舞台、スペイン情趣満点の音楽は、まさに全編が見どころ・聴きどころであり、初めて観るオペラとしてもこれ以上の作品はないと言っていい。

ここはぜひ、名門歌劇場がおくる迫真の舞台で、オペラの魅力満載の傑作を満喫しよう。

柴田克彦(音楽評論家)

【ご注意とお願い】　※チケットをご購入の際は、あらかじめ下記のことをご了承くださいますようお願い申し上げます。
■記載されている情報は2022年7月現在の予定です。諸般の事情により、出演者、公演内容は変更になる場合がございますが、公演中止など、主催者がやむを得ないと判断する場合以外のチケットの払い戻しはいたしません。チケットご購入の際には、ご自身の体調や環境をふまえご判断くださいますようお願いいたします。■チケットご購入後の変更・キャンセルはできませんので、予めご了承ください。■未就学児のご入場はご遠慮ください。■会場内における飲食、喫煙はご遠慮ください。■写真撮影、録画、録音等は一切禁止させていただきます。■開演後のご入場は制限させていただく場合がございます。■ご来場の際はマスクの着用が必須となります。館内では常時マスクの着用をお願いいたします。■37.5℃以上の発熱や体調不良など、新型コロナウイルス諸症状がある場合はご入場いただけません。■本公演は政府及び自治体の方針をふまえ細心の注意を払い開催いたします。最新の情報については、光藍社ホームページ(https://www.koransha.com/)にて発表しますので、チケットご購入の後は、随時ご確認いただきますようお願いいたします。■注意事項をお守りいただけない場合、主催者側の判断でご入場のお断り、または途中退場をお願いする場合がございます。